

一 次の文章（『「センス・オブ・ワンダー」を追いかけて』）を読み、後の問に答えなさい。

著作権に配慮して、
引用文の表示は控えています。

問一 傍線1「畏敬の念」の意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 美しさに憧れる気持ち イ すばらしさを賞賛する気持ち

ウ 崇高なものをおそれ敬う気持ち エ 意外さに驚きあきれる気持ち

問二 傍線2の「こんな青がなぜこの世界に存在するのだろうか」とあるが、このときの筆者の思いとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア こんなに鮮やかな青がどのようにして生まれたのか追究したいと思っている。

イ こんなに美しい青が存在するなんて信じられないと思うほど魅了されている。

ウ こんなにすばらしい青がこの世にあるわけがないと夢想を打ち消している。

エ こんなに自然な青は人間の手でつくりだすことはできないと失望している。

問三 傍線3「奇跡のような瞬間」とあるが、どのような点をさして「奇跡のような」と言っているのか答えなさい。

問四 傍線4「私は虫を捕らえて何がしたかったのだろう」とあるが、後から振り返ってみると、このときの「私」はどのような状態だったといえるか、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 憧れのルリボシカミキリを現実に関手に入れしまったことで、夢を失い喪失感を抱いていた。
イ ルリボシカミキリ的美を究明したいという思いを抱き、科学者としても第一歩を踏み出していた。

ウ 貴重なルリボシカミキリを手に入れたことで、自分の価値が証明されたという手応えを得ていた。

エ ルリボシカミキリの青の美しさをひたすら眺めることで、この世界のあり方を実感していた。

問五 傍線5「我思う、ゆえに我在り」とあるが、筆者が「我思う」の部分と対比させているのはどのようなことか。該当する表現を二〇字で抜き出しなさい。

問六 空欄Ⅰに入る語句として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 神秘性 イ 実在性 ウ 可能性 エ 多様性

問七 少年の頃の筆者にとつての「センス・オブ・ワンダー」とは何であったのか、具体的に答えなさい。

二 次の空欄に漢字を一字入れ、四字熟語を完成させなさい。

1 右往□往 2 枝葉□節 3 一部始□ 4 臨機応□ 5 □心伝心

6 山紫□明

三 次の文の傍線部分の漢字の読みを答えなさい。

1 食卓を花で彩る。 2 責任を回避した。 3 特価の商品をかう。

4 椅子に腰掛ける。 5 ジメジメした湿地。 6 手洗いを励行する。

著作権に配慮して、
引用文の表示は控えています。

問一 この場面は（１）いつのことか、（２）どこのことか、それぞれ答えなさい。

問二 傍線１「町内会ニュース」を比喻を用いて表現している部分を本文中から一二字で抜き出さない。

問三 傍線２「変な企画」の説明として、適切でないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 見つからないものや見つかりにくいものを探している。

イ 熱心な参加者たちによって、自主的に催されている。

ウ 不思議な内容にかかわらず、人気がとてもある。

エ 今まで一度も成果をあげたことがない。

問四 傍線３「恒例」の対義語として適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 異例 イ 例外 ウ 異常 エ 恒常

問五 傍線４「神様なんて探してどうするかしら」のように、陽子は参加する気持ちがないように言うが、実際の行動はどのようなものか、本文中から一文で抜き出さない。

問六 傍線５「そんな表情」はどのような表情か、本文中から抜き出さない。

問七 この場面を通して、陽子は「神様捜索隊」にどのような気持ちを持っているか、適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 見つからないとわかっていても、探しに行きたいという気持ち。

イ ご近所との交流を深めるつもりで、参加しようという気持ち。

ウ 今度こそ見つけてやる、ひそかに張り切る気持ち。

エ ゴミ掃除に対する義務感で、イヤイヤ参加する気持ち。

二 次の四字熟語の傍線部のカタカナを漢字にしない。

1 表^リ一体 2 シ^ン小棒大 3 一心不^ラン 4 私利私^ヨク 5 模^ハン解答

三 次の傍線部のカタカナを漢字にしない。

1 新聞シ^ジョウをにぎわす。 2 夏野菜がシ^ジョウに出まわる。 3 運賃をセイ^サンする。

4 野菜をセイ^サンする。 5 コウ^テイで遊ぶ。